

令和5年度 北海道釧路湖陵高等学校 学校経営シラバス(全日制課程)

学校教育目標	学校の使命(スクールミッション)
○ 高い学力と幅広い社会性を身に付けた、将来のリーダーとなり得る人材を育成する。 ○ 主体的に思考・判断し、適切に対話することができる、創造性あふれる人材を育成する。 ○ 個人と集団の調和を保つことのできる、自律的かつ調和的な人材を育成する。	○ 次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる人材の育成 ○ 向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成 ○ 多様化する国際社会において主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒の育成

3つの方針(スクール・ポリシー)
○ グラデュエーション・ポリシー(湖陵GP):「探究力、創造力、国際的コミュニケーション力を身に付けた生徒の育成」 ○ カリキュラム・ポリシー(湖陵CP):「多様な学びに対応する教育課程の編成」 ○ アドミッション・ポリシー(湖陵AP):「本校が求める生徒像」 ※ 詳細は省略

学校経営方針
○ スクール・ポリシーを踏まえ、入学から卒業までの体系的かつ継続性のある教育活動を展開し、目指すべき学校像として再定義されたスクール・ミッションの達成を図りながら学校教育目標の達成を目指す。 ○ カリキュラム・マネジメントや学校評価をはじめとした、教育活動のマネジメントサイクルを確立し、教育活動の改善・充実を図る。 ○ 「探究力、創造力、国際的コミュニケーション力」をバランスよく身に付けさせる教育活動を推進するとともに、自己の在り方生き方を考えさせながら、よりよく課題を発見し解決するための資質・能力を育む探究的な学習活動の充実を図る。 ○ 服務規律の遵守はもとより、教員のライフステージを踏まえながら、自己研修を奨励したり、校内研修等を計画的に実施したりするなど、教職員の資質・向上に努める。 ○ 「学校における働き方改革『北海道アクションプラン』」等を踏まえ、効率的な校務運営に努めるなど、教員の働き方改革を推進する。

対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための具体的な取組(評価の観点)
学習指導	「主体的に学ぶ意欲と学力の向上」	○ 主体的な学習を促す「探究的な学習活動」の充実を図る。 ○ 学力を多面的に評価する観点別評価の充実を図る。 ○ 興味・関心を高め、理解を深めるICT機器の活用を推進する。	・教務部、SSH推進部等の担当者が連携を深め、「KQ」及び「総合的な探究の時間」の実施計画や内容について定期的に調整しながら、学習活動を実施する。 ・観点別学習評価の在り方やICT機器の効果的な活用に関する校内研修と公開授業等を実施する。
生徒指導	「自律性や社会性を培い、責任を持って行動できる個性ある生徒の育成」	○ 生徒の社会的資質や行動力等の向上を目指した指導の充実を図る。 ○ いじめの未然防止と望ましい人間関係の構築に向けて、教職員による生徒理解を深める。	・挨拶や言葉遣い、身だしなみ等について、教員が共通の認識のもとで指導する。 ・いじめアンケートの結果等を先生方にフィードバックすることを通して、生徒の状況の共有を図るとともに、生徒指導部通信を活用しながら、コンセンサスを得る。
キャリア教育 (進路指導)	「自己理解を深め、主体的に考え、自らの力で進路を切り拓く能力の育成」	○ 生徒が自己の学習状況について理解を深め、主体的にキャリアプランを構築できるよう、取組の充実を図る。 ○ 生徒・保護者を支援するため、教員の情報収集や活用のスキルの向上を図る。	・生徒の主体的な学習を促進するため、模試校内分析会の実施と生徒へのフィードバックを行う。 ・生徒が卒業生の進路先での学びや、地域の職業人の職業観に触れる機会として、「湖陵アカデミア」の内容の充実を図るとともに、複数回開催する。 ・進路通信等を利用し適切な情報発信に努めるとともに、教職員の各種研究会、検討会への参加を促進する。
健康・安全指導	「心身の健康増進及び安全、環境美化意識の高揚」	○ 感染症対策など健康の保持増進の充実を図る。 ○ 生徒の防災や危機に対する意識の向上を図る。 ○ 教員の教育相談に関するスキルの向上を図るとともに、組織的な相談・指導体制の構築を図る。	・生徒が健康に対する意識を高め、自己管理できるよう、様々な機会を設けて学校教育活動全体を通じて啓発する。 ・防火防災意識の向上に努めるとともに、減災を意識した生活態度の涵養を図るため、防災避難訓練の内容等を工夫・改善する。 ・サポート委員会や分掌、学年間の情報を共有するとともに、スクールカウンセラーとの連携を通じた、個々の生徒への適切な対応を行う。
理数教育	「SSH事業を活用した探究能力の育成」	○ SSH第3期事業において、学校全体で組織的に取り組む体制の一層の充実を図る。 ○ 他の学校や関係機関等との連携を深めるとともに、研究成果の普及・発信の充実を図る。 ○ SSH事業と普通科改革推進事業の相乗効果を踏まえながら探究的な学習活動の充実を図る。	・VUCA時代に対応した「Koryo Agency」を体系化するため、SSH推進委員会によるPDCAサイクルを確立させる。 ・他のSSH校と連携した共同研究プログラム等の研究開発を行うとともに、各種コンテストや発表会等を通して、成果の普及・発信に努める。 ・「チーム湖陵」(コンソーシアム)等の教育資源を活用するなど、普通科における「KQ」、「総合的な探究の時間」との教科横断的な学習活動を実施する。